

英語科学習指導案

Date : Friday, May 21, 2010 (1st Period)

Class : 2-3 (20 boys, 19 girls) 39 students

Instructor : Makoto Yamauchi

1 Text: New Horizon English Course 2, Unit 2 Emi goes abroad

2 Lesson Survey

本課は、絵美がゴールデンウィークを利用して、イースター島を訪れるという内容である。ゴールデンウィーク前のグリーン先生との教室での対話、空港での入国審査における係員と絵美の対話、イースター島やモアイの歴史についてのナレーションから構成されている。言語材料としては、助動詞を用いた未来表現、〔主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語〕や〔主語＋動詞＋目的語＋補語〕の文構造、観光地の様子を描写したり、その歴史などを説明したりするための表現などが扱われている。ALTや身近にいる外国人とお互いの観光地について紹介し合うことで、もっと日本のことを伝えたい、外国のことを知りたいというコミュニケーションへの意欲をかき立てる題材であると考えられる。

このような題材の特性を活かし、生徒が、ALTや身近にいる外国の人たちに、生徒が興味のある身近な観光地について紹介できるような授業を展開したい。そのためには、まず、教科書の内容を中心に small tasks を通して、観光地を紹介するために必要な言語材料等を理解させる。その際これまでに学んだ言語材料等とも関連づけながら、まとまりをもって整理できるようにさせる。次に、最終的な large task を解決するのに必要となる既習の言語材料等を、自分なりに工夫して活用させるために、middle task を設定する。その後、large task を解決するために必要となる情報を集めさせた上で、鹿児島島の観光地について紹介のナレーションを作成する活動を取り入れる。

具体的には、本課においては「書くこと」から「話すこと」に重点をおき、「鹿児島島の観光地紹介のナレーションを作ろう」という large task を設定した。活動内容としては、まず、第1時に、オリエンテーションとして、単元のあらましを理解させ、生徒に本単元への意欲づけを行った上で large task の設定を行う。第2時には、未来表現の疑問文の形・意味・用法の理解と表現練習、starting out の内容理解を行わせる。第3時には、〔主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語〕の形・意味・用法の理解と表現練習を行わせ、Dialog の内容理解をさせた後、空港での入国審査でのスキット発表をさせる。第4時～6時では、Reading for Communication の内容理解と音読に取り組みさせ、キーワードをもとにナレーションの再現を行わせたり、ナレーションに必要な言語材料等を整理させたりする。また、〔主語＋動詞＋目的語＋補語〕の形・意味・用法の理解と表現練習をさせる際には、文構造に着目させ、既習の言語材料等との共通点や相違点に気付かせ、文型シートとして、分類・整理させる。第7時では middle task 「日本の観光地の紹介ナレーションを作ろう」を設定し、既習の言語材料等を自分なりに工夫したり、文構造に着目したりしながら活用する経験を積ませる。第8時には、large task に取り組みさせ、ナレーションの練習を行わせる。そして、第9時に実際にALTに紹介ナレーションを発表させる場面を設定する。

このような指導を通して、習得した言語材料等を活用しながら、問題を解決する力が高まり、自ら考え、英語でよりよく理解・表現しようとする生徒を育成できると考える。

3 Class Survey

本学級の生徒は、授業には積極的に参加しているが、「話すこと」「書くこと」については苦手意識を感じている生徒が多く、書いた内容を発表する場面では消極的な態度になってしまうことがある。そこで、生徒が書くときに不安を感じている部分や、つまずきのポイント、そして今回の「鹿児島の観光地の紹介ナレーションを書こう」という large task に対する生徒の興味・関心について把握し、指導に役立てるために以下のアンケートを行った。

(アンケート対象者：2年3組 39名)

- 1 英語の学習で、最も不安に感じるのは次の4つの内、どれですか。その理由は何ですか。
 - ア 書くこと・・・37.5% (理由：語順や綴り、文の構成に自信がなく正しいか分からないから等)
 - イ 話すこと・・・32.5% (理由：発音やアクセントに自信がない、即興的で正確に伝わっているか分からないから等)
 - ウ 聞くこと・・・25.0% (理由：速くて聞き取れないことが多いから等)
 - エ 読むこと・・・5.0% (理由：長い文を読んだり、音読したりするのが苦手だから等)
- 2 「附属中学校の運動会が、日曜日に開催されること」をどのようにすれば、英文にできそうですか。下のア～エの中から選びなさい。
 - ア 辞書を使って、単語を選べば書けそう。・・・37.5%
 - イ 何か新しいこと(文法など)をこれから学んでみないと書けないと思う。・・・35.0%
 - ウ 今までに学んだ表現を使えば、書くことができそう。・・・27.5%
 - エ その他・・・0.0%
- 3 ウを選んだ人は、実際に書いてみてください。
 - ・ Fuzoku Junior High School's Sports Day is on Sunday. (8人)
 - ・ Fuzoku Junior High School has Sports Day on Sunday. (3人)
- 4 アを選んだ人は、調べたい単語は何か。日本語で書き出しなさい。
 - ・ 開催 ・ 運動会 ・ 開催されます ・ ~の
- 5 イを選んだ人は、日本文のどの部分を見てそう考えますか。日本語で書き出しなさい。
 - ・ 開催されます ・ 開催 ・ 単語が分かっても並べられないから
- 6 鹿児島の観光地を紹介するなら、どこを紹介したいですか。また、その観光地のどんな部分を紹介したいですか。具体的にいくつか書いてください。(複数回答)
 - 1位 屋久島(縄文杉・宮之浦岳)
 - 2位 桜島(活火山・長湊の像・農業・食べ物・歴史・その姿・風景・小みかん・温泉・大根)
 - 3位 指宿(砂蒸し・地熱発電)
 - 4位 城山(景色・イルミネーション)
 - 5位 黒豚・かるかん・仙巖園(風景・日本庭園)・天文館(特産品)・イオン・錦江湾(美しさ)・与論島(海・自然)・山形屋(市民に愛されている)・吹上浜(ウミガメの産卵)

アンケート結果によると、書くことにおいては語順やつづり、文の構成など、正確性に不安を感じている。実際に英文を書く場面では、生徒のつまずきの多くは、語彙や語順に関するものが多い。また、日本文の1語1語にとらわれるあまり、分からない単語があるとすぐに辞書を頼りにする生徒が多く、既習の表現を使って We have Sports Day on Sunday. といった書き方ができている生徒は数名のみであった。そのため、何か新しい文型や語を学ばなければ書くことはできないと考えている生徒の割合も多い。

そこで、本課の学習においては、まず、生徒の興味・関心の高い観光地について、友人やALTに紹介し合うという目的を明確にすることで、書くことへの意欲を高めたい。また、前時までに整理し、まとめた文型シートを用いることで、既習の言語材料等を組み合わせれば、表現することが可能であることに気付かせ、別の場面でも既習の言語材料等を用いて、活用しようとする態度をはぐくみながら、言語材料等を活用する力を高めさせたい。

4 Lesson Plan

(1) タスク 「鹿児島県の観光地紹介のナレーションを作ろう」

(2) 言語の使用場面と言語の動き

言語の使用場面	言語の働き	表現形式
・友人との対話	<質問する> <答える>	Do you have any plans for the “Golden Week holidays”? I’m going to visit Lake Towada by plane.
・入国審査	<依頼する> <質問する> <答える> <質問する> <答える>	Show me your passport, please. What's the purpose of your visit? Sightseeing. How long are you going to stay? For three days.
・観光地で	<描写する> <説明する>	It’s so big. It’s about eight meters tall and weighs 70 tons. People call it a moai. It has about 1,000 moais. These moais are standing on the beach. Later people made many moais in the mountain. But now we can see some of them on the beach.

(3) 言語材料等を自分なりに工夫して活用させる工夫

本課の言語材料等を活用する学習においては、これまでに学んだ言語材料等を自分なりに工夫して活用できるようにさせる。そのために、large task「鹿児島県の観光地紹介のナレーションをつくらう」で活用させたい言語材料等を、middle task への取組の中で自分なりに工夫して活用する経験を積めるように、タスクを「日本の観光地紹介のナレーションを作ろう」と設定する。また、生徒が習得している言語材料等をもとに、文型シートを用いて、英語の文構造に着目させながら表現できるようにした。

(4) Allotment (7/9) は本時

	Tasks	言語材料等の活用場面	活用場面における4技能の統合			
			L	S	R	W
----- 主な学習内容 -----						
第1時	small task 単元のあらましを理解しよう ・ Unit 2 のスキーマ形成 ・ large task の設定 ・ 観光地を紹介するために必要な情報の収集	スキーマ形成に向けて、インタラクションを図る場面	◎	◀	○	
第2時	small task ゴールデンウィークの予定について話そう ・ Starting Out の内容理解と音読練習, be going to を用いた未来表現の形, 意味, 用法の理解と表現練習 ・ ゴールデンウィークの予定についての対話	ゴールデンウィークの予定について, 友人と対話する場面	◎	◀	○	
第3時	small task 入国審査でのスキットをつくり発表しよう ・ Dialog の内容理解と音読練習 〔主語+動詞+直接目的語+間接目的語〕の文構造の理解と表現練習 ・ 入国審査でのスキットの作成と発表	入国審査でのスキットを作成し, その内容についてペアで発表する場面			◎	◀
第4時 ? 第6時	small task ナレーションに必要なポイントをまとめよう ・ Reading for Communication の内容理解と音読練習 ・ キーワードをもとにしたナレーションの再現 ・ ナレーションに必要な表現の理解 ・ 〔主語+動詞+目的語+補語〕の文構造の理解と表現練習 ・ 文型シートの作成	教科書本文の内容を理解した後, 本文のキーワードをもとに, その内容を自分なりに再現する場面			◎	◀
第7時 (本時)	middle task 日本の観光地紹介のナレーションを作ろう ・ 日本の観光地紹介のナレーション原稿の作成 ・ ナレーションの練習と発表	観光地紹介のナレーションを文型シートを用いて作成し, 発表する場面			◎	◀
第8時	large task 鹿児島島の観光地紹介のナレーションを作ろう ・ 個々による紹介文の作成と校正, 発表準備, 練習	観光地紹介のナレーションを作成し, 構成したり, 発表の準備をしたりする場面			◎	◀
第9時	large task 鹿児島島の観光地紹介のナレーションを作ろう ・ 鹿児島島の観光地紹介, 内容に関する対話, 相互評価, 自己評価	作成した観光地紹介のナレーションを発表する場面	◎	◀	○	

(5) 評価規準表

観点別学習状況評価のための規準 2年 題材名 Unit 2 Emi Goes Abroad 重点指導事項【書くことから話すこと】
 [タスク] : 鹿児島島の観光地紹介ナレーションを作ろう。
 目標行動 : 鹿児島島の観光地紹介のナレーションの原稿を書き, それをもとにナレーションをすることができる。

評価計画	観点	I コミュニケーションへの関心・意欲・態度		II 表現の能力		III 理解の能力		IV 言語や文化についての知識・理解		
		評価規準	評価事例	段階	評価事例	評価規準	段階	評価事例	評価事例	
SO	未来のことを表す be going to の文を用いて話す場面 (観察法, インタラクションによる英問英答)	(言語活動への取り組み) ア 本文を見て, ロールプレイを繰り返し, それをもとに英語で積極的に話している。 (コミュニケーションの継続) ア 分からないところは聞き返すなどしながら, 不自然な沈黙をせず, 友人と会話を続けている。	(正確な発話) ア 未来のことを表す be going to の文を正しく用いて話すことができる。 B ビクターチャートを用いて未来を表す be going to を用いた文を繰り返し練習させる。	A	正しい強勢, イントネーションなどを用いて話すことができる。 B 友達と今後の目標の予定を尋ね, 説明し合うことができる。	A		(言語についての知識) ア 未来のことを表す be going to を用いた文の形, 意味, 用法を理解している。	A	友達とこれからの予定についてやりとりする表現を理解している。
D	SV00 の形の文を用いて話す場面 (英問英答, 自己・相互評価)	(言語活動への取り組み) ウ 間違いを恐れず, 対話をしている。 (コミュニケーションの継続) エ 別の表現で言い換えるなどの工夫をしながら, 話し続けている。	(正確な発話) イ SV00 の形の文を正しく用いて話すことができる。 B ビクターチャートを用いて SV00 の形の文を繰り返し練習させる。	A	正しい強勢, イントネーションなどを用いて話すことができる。 B 表の語句を用いて誰か, 誰に, 何をどうしたという文を話すことができる。	A		(言語についての知識) イ SV00 の形の形, 意味, 用法を理解している。	A	空港の入国審査でやりとりする表現を理解している。
RC	イースター島の特徴や名所, 歴史を紹介するナレーションをキーワードを使って再現する場面 (観察法)	(言語活動への取り組み) オ 間違いを恐れず, 自ら学んだ表現を使って, キーワードをもとに本文の内容を友人に伝えている。 (コミュニケーションの継続) カ 理解してもらえないように, 別の語句や表現で言い換えるなどの工夫をしている。	(適切な発話) ウ キーワードをもとに適切な声量や音節で, 本文の内容を再現できる。 B 教科書を用いてナレーション内容を再度確認させる。	A	メモ等を見ずに, 大切な部分を強調しながらナレーションすることができる。 B 本文内容のキーワードをもとに, 適切な声量や音節で, 内容の再現ができる。	A		(言語についての知識) ウ SVOC の形などナレーションに必要な, 基本的な内容を理解している。	A	SVOC の形の文等, 説明に必要な表現を理解している。
RC	鹿児島島の観光地紹介のナレーションを書き発表する場面 (観察法)	(言語活動への取り組み) キ 間違いを恐れず, 自ら学んだ表現を使って, 英語で積極的に紹介のナレーションを書き, 発表している。 (コミュニケーションの継続) ク 理解してもらえないように, 別の語句や表現で言い換えるなどの工夫をしている。	(適切な筆記・発話) エ 鹿児島島の観光地紹介のナレーションを既習の言語材料等を使って書き発表できる。 B 文型シートや教科書等を用いて, 既習事項を確認させる。	A	相手の理解を確認しながら, それに応じてナレーションをすることができる。 B 写真を見せながら, 伝えたい内容が伝わるように, 語句や表現を選択しながらナレーションすることができる。	A		(文化についての知識) エ A.L.T の国やイースター島の歴史を理解している。	A	A.L.T の国やイースター島の歴史を理解している。
	・ 単元テストを用いて理解度を確認する。		<基本> ① 絵の内容を英語で表現できる。 ② 未来のことを表す be going to や SV00 の形を用いて正しく文を書くことができる。 <発展> ① 場面にあった適切な英文を書き, 発表することができる。		<基本> ① 正しく単語を聞き取ることができる。 <発展> ① よとまった英文の内容を聞き取ったり, 読み取ったりできる。					

5 Aims of This Period

(1) 本時のタスク (middle task)

「日本の観光地紹介のナレーションを作ろう。」

(2) 指導の重点

「書くこと」から「話すこと」

(3) 本時の目標行動

観光地の写真と観光地についてのメモをもとに、日本の観光地紹介のナレーションの原稿を書く。その際、表現しにくいものについては、文型シートを用いて、他の文構造で表現できないかと考え、自ら工夫して表現する。その上で、発音や声量に気を付けたり、相手に伝わりやすいように工夫したりしながら、ナレーションを互いに発表し合うことができる。

(4) 本時の指導目標

ア 友人と協力したり、既習の表現を想起したりしながら間違いを恐れずに観光地の紹介ナレーションを作り、発表しようという態度をはぐくむ。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

イ 既習の表現を用いて、観光地紹介のナレーションを書き、その内容を紹介することができるようにさせる。 【表現の能力】

ウ 観光地紹介のナレーションの内容を、話し手に聞き返すなどして、内容を確認しながら理解できるようにさせる。 【理解の能力】

エ 観光地紹介のナレーションを作る上で必要な表現や文構造について理解させる。

【言語や文化に関する知識・理解】

(5) 授業設計上の工夫

ア 表現の工夫を促すタスク設定

large task 「鹿児島県の観光地紹介のナレーションを作ろう」の準備段階として、新たに middle task 「日本の観光地紹介のナレーションを作ろう」を設定し、small tasks で定着させた言語材料等以外にも、large task で用いさせたい言語材料等を自分なりに工夫して活用できるようにする。また、観光地についての情報をメモや写真で与え、生徒はその内容をいかに伝えればよいかの判断を日本語にとらわれず、自由に既習の言語材料等から選び出せるようにする。このことにより、生徒はこれまでに学んだ言語材料等を、自分なりに工夫して活用することができ、large task への取組にもその経験を生かすことができるようになる。

イ 英語の文構造に着目させる指導

本時の middle task に取り組む前に、文型シートに既習の文構造についてまとめさせておく。その文型シートを用いて、生徒が表現できない部分を、異なる文型で表現したり、主語を補って表現したりできないかという視点をもたせた上で、再度書かせる。このことにより、生徒は英語の文構造に着目し、習得した言語材料等を自分なりに工夫しながら活用することができるようになる。

(6) 本時の実際 (7/9)

区分	教授=学習過程	時間	生徒の活動	指導上の留意点 ◆ 評価 □ 補説 (研究との関連)
導 入	<p>Start</p> <p>Greetings 1</p> <p>Review 2</p>	10'	<p>1 英語であいさつをする。</p> <p>2 前時までに学習した本文の内容について教師の質問に英語で答え、それをもとに本文の内容を復元する。</p>	<p>◆ 英語学習の雰囲気を作るために、大きな声で元気にあいさつさせる。</p> <p>◆ ピクチャーチャートやキーワードを示しながら、前時に学習した本文の内容を想起しやすいようにする。</p>
	<p>Grasping Task 3</p> <p>Writing Sentences 4</p> <p>Group Work 5</p> <p>Rewriting 6</p> <p>Oral Practicing 7</p> <p>Presentation 8</p> <p>Aux.</p> <p>Yes</p>		35'	<p>3 本時のタスクを把握する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">日本の観光地紹介のナレーションを作ろう。</p> <p>(教科論 6-(2)-ア)</p> <p>4 観光地写真と日本語の紹介メモを使って、紹介ナレーションを個人で書く。</p> <p>5 グループを作り、紹介ナレーションの修正を行う。</p> <p>6 英語の文構造に着目しながら、既習の言語材料等を活用して、個人で書き上げる。</p> <p>7 紹介ナレーションの練習を行う。</p> <p>8 観光地の紹介ナレーションを発表し合う。</p>
終 末	<p>Evaluation 9</p> <p>Assignments 10</p> <p>End</p>	5'		<p>9 授業の感想や反省を述べ合う。</p> <p>10 今後の活動の見通しをもつ。</p>